

室蘭工業大学大学院における学習成果の評価の方針

令和元年10月10日 教育システム委員会決定

令和元年10月17日 博士後期課程専攻長等会議決定

最終改正：令和 7年 5月29日 教育システム委員会

最終改正：令和 7年 6月 3日 博士後期課程専攻長等会議

室蘭工業大学大学院における教育課程の学習成果については、学位授与の方針に定める以下の資質や能力を最終的に達成するように構成された、各授業科目の到達度目標の達成度を評価すべく、授業担当教員は、授業科目の特徴を踏まえた多面的評価を行う。

【博士前期課程】

1) 専門性と展開力

高度な専門知識と技術を体系的に身に付け、それらと基礎的な研究能力を駆使して自律的に課題の発見・解決方法を提案できる能力を身に付ける。

2) 強靱性と俯瞰力

専門分野を越えた知識と情報・データ処理技術を身に付けるとともに、多様な困難を俯瞰的に捉えて、論理的に対応できる能力を身に付ける。

3) 社会性とコミュニケーション力

豊かな教養を基に複雑化・多様化した社会で他者と協働し、地域や社会の課題解決に主体的に行動できる能力を身に付ける。

【博士後期課程】

1) 専門性と展開力

深化・高度化した世界水準の専門知識と、実践的な研究能力を駆使して、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を解決できる能力を身に付ける。

2) 強靱性と俯瞰力

広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して、多様な困難を俯瞰的に捉え、解決できる能力を身に付ける。

3) 社会性とコミュニケーション力

国際的コミュニケーション能力を身に付けるとともに高い倫理観と豊かな教養を持ち、多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。

1. 教育・評価方法

【博士前期課程】

区 分	教 育 方 法	評 価 方 法
1) 専門性と展開力 高度な専門知識と技術を体系的に身に付け、それらと基礎的な研究能力を駆使して自律的に課題の発見・解決方法を提案できる能力を身に付ける。	専門分野の柱となる科目及び発展的な科目を配置することにより、世界水準の高度な専門的知識を教授するとともに、ゼミナール・特別研究・研究指導等を通じて、課題発見・解決力を養う。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表等により評価する。 ②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技等により評価する。
2) 強靱性と俯瞰力 専門分野を越えた知識と情報・データ処理技術を身に付けるとともに、多様な困難を俯瞰的に捉えて、論理的に対応できる能力を身に付ける。	他コース履修科目や全学に共通に開講されている科目等や、専門における情報・データ処理技術を学ぶ科目により、多様な課題に対して、広い視野から解決策を見いだす能力を養う。	③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を評価に活用する。 ④ゼミナール及び特別研究については、活動、演習、実験内容等により評価する。
3) 社会性とコミュニケーション力 豊かな教養を基に複雑化・多様化した社会で他者と協働し、地域や社会の課題解決に主体的に行動できる能力を身に付ける。	全学に共通に開講されている科目等により豊かな教養とコミュニケーション力を教授するとともに、ゼミナール・特別研究等を通じて、協働性及び主体性を養う。	⑤学位論文については、あらかじめ明示された審査基準に基づき、提出された学位論文及び公開発表会により評価する。

【博士後期課程】

区 分	教 育 方 法	評 価 方 法
1) 専門性と展開力 深化・高度化した世界水準の専門知識と、実践的な研究能力を駆使して、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を解決できる能力を身に付ける。	実践的PBL科目・特別研究及び研究指導により、イノベーションを創出する能力を養うとともに、社会の多様なニーズに対応し、複雑な課題を自律的に発見・解決できる能力を身に付ける。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート等により評価する。 ②ゼミナール及び特別研究については、活動、演習、実験内容等により評価する。 ③学位論文については、あらかじめ明示された審査基準に基づき、提出された学位論文及び公開発表会により評価する。
2) 強靱性と俯瞰力 広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して、多様な困難を俯瞰的に捉え、解決できる能力を身に付ける。	ゼミナール及び特別研究により、広汎で高度な専門知識と情報・データ処理技術を駆使して多様な困難を俯瞰的に捉えて論理的に対応できる能力を身につける。	
3) 社会性とコミュニケーション力 国際的コミュニケーション能力を身に付けるとともに高い倫理観と豊かな教養を持ち、多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。	英語プレゼンテーションの実践により、社会のグローバル化に対応可能な国際的コミュニケーション能力を養い、ゼミナール及び特別研究において、高い倫理観と豊かな教養のもとで多様な困難を協働して解決する能力を身に付ける。	

2. 成績評価方法の明示

授業科目の成績評価方法については、シラバスに明示する。

3. 成績評価基準

得 点 (100点法により採点)	評語	評 価		G P (評点)
		達成度レベル	合否判定	
80点～100点	A	到達度目標を十分に達成し優秀である	合格	4
70点～79点	B	到達度目標を概ね達成している		3
60点～69点	C	到達度目標を最低限達成している		2
59点以下	D	到達度目標を達成していない	不合格	0

※得点の区分は博士前期課程のみ

4. GPA（科目成績平均値）

合格における3段階の評価のほかに、成績を上記のとおり点数化（GP）し、学生自身による学習成果の達成状況の確認、大学院による順位付けの参考データとして活用する。

5. 成績情報の開示

学生に対して、学務システムを利用し、授業科目ごとの評語とGP、学期ごとのGPA、累積GPAを開示し、学生自身による確認を可能とする。

6. 評価の点検

成績評価の結果は、評価分布等を使用して、教育システム委員会において定期的に点検を行い、必要に応じて教育方法等の改善を行う。

7. 適用

上記3におけるGP及び4におけるGPA（科目成績平均値）は、令和元年度入学者から適用する。